

第26回(1994年度)サントリー音楽賞
受賞者は和波孝禧氏に決定

毎年わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた日本人に贈る「サントリー音楽賞」の第26回(1994年度)受賞者は、和波孝禧氏に決定した。

1. 1995年1月15日(成人の日)午前10時より東京丸の内の東京會館において、選考委員13名の出席(船山委員は書面参加)により第一次選考を行ない、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月6日(月)午前10時より、東京紀尾井町のザ・フォーラムにおいて選考委員13名の出席により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第26回(1994年度)サントリー音楽賞受賞者に和波孝禧氏が選定された。そして、同日午後開催の理事会において正式に決定された。
3. 和波孝禧氏の選考理由は別紙のとおり。
4. 選考委員は下記の13氏。
磯山 雅・岩井宏之・小石忠男・菅野浩和・武田明倫・中河原理・丹羽正明・藤田由之・船山 隆・松本勝男・三宅幸夫・門馬直美・吉田雅夫

(50音順)

和波孝禧(ヴァイオリン)

<贈賞理由>

和波孝禧氏は、戦後世代の日本人音楽家のトップに位置する演奏家である。即ち、終戦の年、1945年(昭和20年)に東京で生まれた和波氏は、正に、わが国の戦後の歴史とともに足跡を刻んできた音楽家であるといえる。第2次大戦後の混乱の真只中であって、4歳からヴァイオリンを習い始め、桐朋学園に学び、1967年、同大学を卒業した後、独奏者・室内楽奏者として、一貫してわが国の音楽界の第一線で活躍を続けてきた和波氏

は、今年、齢50歳に達し、いま円熟の境地にあるといえることができる。

和波氏の音楽は、一言にして評するならば、純粹・無垢、常に変わらぬその真摯な音楽への取り組み姿勢によって、演奏を聞く人々に深い内的感動をもたらし、内外で最も高い評価を得続けている。

和波氏の音楽は、一言にして評するならば、純粹・無垢、常に変わらぬその真摯な音楽への取り組み姿勢によって、演奏を聞く人々に深い内的感動をもたらし、内外で最も高い評価を得続けている。

1994年における顕著な活動としては、今回で第4回を迎えた自主企画「クリスマス・バッハ・シリーズⅣ～ヴァイオリン協奏曲と無伴奏作品」（12月25日、東京文化会館小ホール）において、J. S. バッハの「無伴奏ソナタ第1番」「無伴奏パルティータ第2番」「ヴァイオリン協奏曲第1番」「同・第2番」を演奏し、満員の聴衆に大きな感銘を与えたことが挙げられる。その折り、和波氏が独奏ヴァイオリンを弾きながら指揮したオーケストラは、同氏が、毎年8月に、避暑地の八ヶ岳高原・泉郷^{いづみごう}で開催している「和波孝禧八ヶ岳サマーコース（1985年創設）」に参加した受講生を中心として結成されたオーケストラ「いづみごうフェスティバル・オーケストラ」であった。ここ10年程における同氏の活動実績には、自身の演奏活動に加えて、上記の講習会における後進の指導、そしてオーケストラ主宰者としての若手演奏家の育成などが、もう一方の重要な部分を成している。また、ロンドン・フィルとのブラームスとシューマンの協奏曲のCD、および「いづみごうフェスティバルオーケストラ」を指揮したCDも94年にリリースされた。戦後50年を迎えた今年、同氏にサントリー音楽賞を贈ることは、誠に時宜を得た、意義深い贈賞であると思われる。

和波孝禧氏のコンクールその他の受賞歴のうち、主なものは、「第31回日本音楽コンクール」第1位特賞・安宅賞受賞（1962年）、「ロン＝ティボー国際コンクール」第4位入賞（1965年）、「カール・フレッシュ国際コンクール」第2位入賞（1970年）、「文化庁芸術祭」優秀賞受賞（1971、78、83年）、「第23回モービル音楽賞」（1993年）等がある。なお、視覚障害を克服した社会活動に対して、1987年に「内閣総理大臣表彰」を受けた。

<略歴>

1945年4月1日東京生まれ。4歳からヴァイオリンを始め、1962年第31回日本音楽コンクールに優勝。翌年、日本フィルのソリストとして斎藤秀雄氏の指揮で楽壇にデビュー。その後、パリのロン＝ティボー国際コンクール、ロンドンのカール・フレッシュ国際コンクールにいずれも上位入賞。1968年「点字毎日文化賞」、1971年、78年、83年には「文化庁芸術祭優秀賞」を受け、1993年は「第23回モービル音楽賞」を受賞。

これまでに国内はもとより、ドイツ、イギリス、アメリカなどの著名なオーケストラと協演。また、1980年以降、ピアニスト土屋美寧子と国の内外で数多くのデュオリサイ

タルを開催。加えて「いずみごうフェスティバルオーケストラ」を主宰、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー、CD録音など、多彩な活動を展開している。

1994年は、ロンドン・フィルとのブラームスとシューマンの協奏曲のCDおよび「いずみごうフェスティバルオーケストラ」を指揮したCDを発売。5月、東京で「第8回アフタヌーンコンサート」を開催。9月には甲府と東京で、ネヴィル・マリナー指揮、セント・マーチン・アカデミー管弦楽団と協演。11月はブダペストでブラームスの協奏曲を演奏。12月には東京で「クリスマス・バッハシリーズ・IV」を開催。

和波は現在、母校の桐朋学園大学で非常勤講師を務めるほか、毎年夏に「八ヶ岳サマーコース」を開いて後進の指導にあたっている。著書に「音楽からの贈り物」がある。

以 上